

# 『専修ビジネス・レビュー』

## Vol.4 No.1 刊行のことば

専修大学商学研究所所長 渡辺達朗

『専修ビジネス・レビュー』は、1965年に商学部設置に合わせて専修大学商学研究所が設立されてから40周年を迎えたことを記念して、従来の『商学研究年報』を全面的に刷新することによって、2006年に創刊された。前身の『商学研究年報』は、1976年に商学研究所設立10周年の節目に創刊されたもので、以降、毎年1号が刊行されてきており、商学研究所創立当初から発刊されていた『商学研究所報』と並んで、所員等の研究活動の重要な発表の場となっていた。

『専修ビジネス・レビュー』は、このよき伝統を受け継ぎつつ、近年、研究環境がよりグローバルかつローカルな方向にシフトしつつあることに適合するとともに、社会や地域、産業界に対する情報発信力を強化し、双方向のコミュニケーションを充実させることを狙いとして、刊行されるようになったのである。

『専修ビジネス・レビュー』では、創刊以来、特集論文と自由論題で構成する編集方針をとっている。本号（Vol.4 No.1）においては、特集として「アジアにおける企業経営の現状と課題」を設定し、4本の論文を掲載するとともに、自由論題として1本の論文を掲載している。いずれも所員および準所員の近年の研究活動の成果である。

2009年に創立130周年を迎える専修大学は、「社会知性の開発」を理念として掲げ、その具体化について全学あげて取り組みを強化している。商学研究所においても、こうした理念の下で幅広い視点から、社会や地域、産業界の方々との連携・協力をいっそう強めながら、定例研究会、公開シンポジウム等の特別研究会、プロジェクトチームによる共同研究、国際提携に基づく研究、外部からの受託研究といった研究・教育活動を推進していきたいと考えている。

ここであらためて、これまでの本誌読者の皆様、および大学関係者、商学研究所運営委員、所員、準所員、学外参加者の皆様のご支援、ご協力に対して感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご支援、ご協力いただくことをお願い申し上げます。しだいである。

(2009年1月30日)